

## 式 辞

今年の冬は例年になく寒さが続きました。ここ玉島では、雪こそ積もることはなかったものの、氷点下まで冷え込む日が続き、学校の西側の里見川が氷結する日もありました。これほど春を待ち焦がれる気持ちになった冬は、記憶にないほどですが、ようやく弥生3月を迎え、春の足音が大きくなってきました。

本日ここに、岡山県議会議員の山田総一郎様、岡山県総合教育センター次長の木下晴揮様をはじめとして、多数のご来賓の方々のご臨席を賜り、卒業証書授与式を挙げていくことは大きな喜びであり、心より厚くお礼申し上げます。

まずは、先ほど卒業証書を授与いたしました195名の卒業生と保護者の皆様、誠にありがとうございます。3年間の様々な出来事を思い出され、感慨も一入のことと拝察いたします。

さて、お隣の韓国で開催されていた冬季オリンピックは先日、幕を閉じました。自分の思い描いたとおりの結果を残せた選手もいれば、全く力を発揮できなかった選手もあり、まさに悲喜こもごもでした。

それぞれの競技の戦いを見ていて幾度も思い浮かべた言葉は「グッド・ルーザー」という言葉です。日本語で言うと「良き敗者」です。敗れ去った時、うまくいかなかった時こそ、潔くあれという考え方です。敗れても全力を出し切ったという思いで試合を終えた選手は、一様に表情も爽やかに、潔く負けを受け入れ、対戦相手や周囲の人たちに感謝の気持ちを伝えることができていました。見た目にも「良き敗者」すなわち「グッド・ルーザー」たる姿です。

気になったのは自己の持つ力を十分には発揮できなかった選手、自分の目指した結果が得られなかった選手たちの敗戦後の態度でした。屋外で行われるスキーやスノーボード、ジャンプでは、風の吹き方一つでパフォーマンスに大きな影響がありますから、運、不運はつきものです。しかし、不運な時であろうと、緊張の中で不本意なパフォーマンスに終わった時であろうと、悔しい気持ちを抑えて、勝利した対戦相手を讃え、競技役員や自らを支えてくれたスタッフ、応援してくれた周囲の方々への感謝の気持ちが表現できるか否かで、その人が「良き敗者」すなわち「グッド・ルーザー」であり、かつ「真のトップアスリート」であるのか、そうではないのかが分かるものです。

スポーツでは常に勝者であり続けることはできません。ましてや自分の体力が衰えてくると、自分の思うようなパフォーマンスが発揮できずに敗者になり、そして引退という道を進んで行くのがアスリートです。

要するに、すべてのアスリートはいずれ誰もが敗者になるということです。勝ったときには誰でも嬉しくて満面の笑みで周囲に接することができます。しかし、負けたとき

にこそ、「真のトップアスリート」は勝者である対戦相手を称え、周囲にも配慮した言動が出来るものです。そして、そういう「真のトップアスリート」「真のオリンピック」は、勝ったときには敗者を思いやることもできるものです。

思い浮かべてもらいたいのは、スピードスケート 500 メートルで金メダルの小平奈緒選手と銀メダルの韓国のイ・サンファ選手がレース後にお互いを称えた態度、そしてカーリング女子の準決勝で韓国に負けた瞬間の藤沢選手や 3 位決定戦で負けが決まった瞬間のイギリス選手が、即座に右手のグローブを外して勝者に握手を求めた態度です。

極論すると、スポーツは「グッド・ルーザー」を育てるためにあるようなものだと言えます。長年にわたってスポーツに関わってきた人間の一人として、思うようにいかない時に、それを他人のせいにしたり、文句ばかり言う人を育てているようではスポーツの存在意義はないと考えています。

現在、NHK の大河ドラマは「西郷どん」ですが、その西郷隆盛が次のような言葉を残しています。

『人を相手にせず天を相手とせよ 天を相手にして己を尽くして  
人を咎めず 我が誠の足らざるを尋ぬべし  
人を咎めず 我が誠の足らざるを尋ぬべし』

「人のせいにするな。自分の努力と誠実さが足らなかったからだと考えろ。」ということです。

日本人は無宗教だと言われながらも、自分ではどうにもならないような何か大きな力に身を任せているという感覚を持っています。それを英語で表現すると「サムシング・グレート」です。西郷隆盛の言う「天」とはその「サムシング・グレート」を意味しているように思います。

いわゆる「グッド・ルーザー」と呼ばれる人たちは、うまくいかなかった原因は自分自身にあると考えられる人たちです。客観的に見ると、本人には何ら責任のない原因でうまくいかない場合でも、それが自分の努力、誠実さが足りなかったからだと考えられるアスリートこそ、真の「グッド・ルーザー」でしょう。

私は、皆さんのちょうど 40 年先を歩いているところですが、長く生きてみて、自分の望んだとおりになることは本当に少なかったなあと感じています。極端に言うならば、ほとんどうまくいかなかったとも言えるのかもしれませんが。人生とはそういうものなのに、一つ一つ悲しんだり、嘆いたり、羨んだり、誰かを恨んだりしていても何も解決はありません。失敗しても失敗しても諦めずに努力し続けること、誠実に取り組むことが人生の基本です。

実は、一昨日、NHK のテレビで平昌オリンピックテーマソングのセカイノオワリが歌う「サザンカ」のフルコーラスを初めて聞きました。こんなに素晴らしい歌だったのか

と直ぐに You Tube を検索したら、セカイノオワリの Fukase と俳優の神木隆之介が兄弟役で出演するミュージックビデオがありました。早速見てみたら、恥ずかしながら、自分のこれまでの人生を思い出して涙してしまいました。特に「努力が報われず不安になって、珍しく僕にあたりたりして」とか「ここで諦めたら今までの自分が可哀想だと君は泣いた」「誰よりも転んで誰よりも泣いて、誰よりも君は立ち上がった」というフレーズには心が震えました。まさに「常にグッド・ルーザーであれ、諦めずに人生という物語の主人公であれ」と言われたような気がしました。まだ見ていない人は、泣いても恥ずかしくないところで是非見てください。ちなみにサザンカの花言葉は「困難に打ち克つ」「ひたむきさ」だそうです。

「努力をしない人ほど文句が多い」ということをよく聞きます。誠実に努力し続けている人は、思うような結果が出ずとも決して文句などは口にせず、また黙々と誠実に努力する人です。今回の平昌オリンピックは「グッド・ルーザー」たることの難しさを強く感じさせてくれました。

卒業生の皆さん、これから辛いことにぶつかったときに、この「グッド・ルーザー」という言葉を思い出してもらいたいと思います。

もう一つどうしても触れておかなければならないのは、近江商人の「三方よし」の教え、すなわち「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」です。私が赴任した2年前から、事あるごとに何度も話をしてきました。先日の3年生の課題研究発表会では、あるグループが「三方よし」をグローバルに捉えてくれて、「売り手よし」「買い手よし」そして「世間よし」ではなく「世界よし」と言ってくれました。自分の国だけが良ければ良いという考え方が未だに世界に蔓延っていますが、世界中の人々が「売り手よし」「買い手よし」そして「世界よし」という精神を共有出来る日が来ることを期待します。それを皆さんに託します。

最期に卒業生の皆さんの未来に幸あれとお祈りし、式辞といたします。

平成30年3月1日

岡山県立玉島商業高等学校長 延原良明